

- 七月一日 北海道開発審議会特別委員を委嘱された。
- 昭和三十一年（一九五六年）
- 三月三十一日 北海道総合開発委員会委員を委嘱された。
- 昭和三十二年（一九五七年）
- 七月二十九日 小樽商科大学長の任期を満了した。
小樽商科大学教授に任ぜられた。
- 昭和三十七年（一九六二年）
- 三月三十一日 停年により小樽商科大学を退職。
- 四月一日 小樽商科大学名誉教授の称号を授与された。
- 昭和四十三年（一九六八年）
- 十一月三日 勲二等に叙せられ、旭日重光章を授けられた。
- 昭和五十七年（一九八二年）
- 一月三十一日 午前一〇時三〇分心不全により逝去。
従三位に叙せられた。
- 二月二日 禅林寺（三鷹市下連雀）において葬儀を行なう。
天皇陛下より祭料を下賜された。

袴姿の中学時代

志 羽 俊 栄

第二部 大野先生を偲ぶ

- 三月三十一日 留学のため出発。
- 五月三十日 在留国としてイタリアおよびアメリカを追加された。
- 昭和五年 (一九三〇年)
- 六月二十八日 在留満期後昭和六年一月一日まで私費滞在を許可された。
- 昭和六年 (一九三一年)
- 一月十日 留学を終え帰国。
- 昭和十一年 (一九三六年)
- 六月十三日 勲六等に叙せられ、瑞宝章を授けられた。
- 昭和十三年 (一九三八年)
- 八月二十八日 臨時召集により入隊。
- 昭和十五年 (一九四〇年)
- 三月九日 陸軍歩兵中尉に任ぜられた。
- 七月三十一日 召集解除。
- 八月十六日 勲五等に叙せられ、瑞宝章を授けられた。
- 昭和十八年 (一九四三年)
- 十二月七日 臨時召集により入隊。
- 昭和十九年 (一九四四年)
- 四月一日 小樽高等商業学校が小樽経済専門学校と改称されたことに伴い、小樽経済専門学

- 校教授に任ぜられた。
- 十月二日 従四位に叙せられた。
- 昭和二十年 (一九四五年)
- 八月二十日 陸軍大尉に任ぜられた。
- 九月十二日 召集解除。
- 昭和二十一年 (一九四六年)
- 五月三十一日 小樽経済専門学校長に補せられた。
- 昭和二十三年 (一九四八年)
- 十一月二十一日 日本学術会議会員に当選した。
- 昭和二十四年 (一九四九年)
- 五月三十一日 小樽経済専門学校が小樽商科大学に包括されたことに伴い、小樽商科大学長に補せられた。
- 昭和二十七年 (一九五二年)
- 四月一日 小樽商科大学短期大学部学長を兼職。
- 昭和二十八年 (一九五三年)
- 二月二十日 北海道科学技術審議会委員を委嘱された。
- 七月二十九日 小樽商科大学長に再選された。
- 昭和二十九年 (一九五四年)

大野純一先生略歴

(長谷清一氏)

- 明治三十一年 (一八九八年) 八月五日 北海道空知郡滝川村に生まれた。
- 明治三十七年 (一九〇四年) 四月一日 滝川尋常高等小学校尋常科に入学。
- 明治四十三年 (一九一〇年) 三月三十一日 滝川尋常高等小学校尋常科を卒業。
- 四月一日 石川県江沼郡瀬越村塩谷尋常高等小学校高等科に入学。
- 明治四十四年 (一九一一年) 三月三十一日 塩谷尋常高等小学校高等科を卒業。
- 四月一日 石川県小松中学校に入学。
- 大正五年 (一九一六年) 三月三十一日 小松中学校を卒業。
- 四月一日 小樽高等商業学校に入学。
- 大正八年 (一九一九年) 三月三十一日 小樽高等商業学校を卒業。

- 四月一日 東京高等商業学校専攻部に入学。
- 大正十一年 (一九二二年) 三月三十一日 東京高等商業学校専攻部を卒業。
- 四月二十一日 小樽高等商業学校講師を嘱託された。
- 十月二十九日 小樽高等商業学校助教授に任ぜられた。
- 十二月一日 現役兵として入隊のため休職。
- 大正十二年 (一九二三年) 十一月三十日 満期除隊により予備役に編入。
- 十二月一日 予備役見習士官として勤務演習に応召。
- 十二月六日 復職。
- 大正十三年 (一九二四年) 三月三十一日 召集解除。
- 十月二十九日 木村キミと結婚。
- 十一月十日 小樽高等商業学校教授に任ぜられた。
- 大正十五年 (一九二六年) 四月一日 陸軍歩兵少尉に任ぜられた。
- 昭和二年 (一九二七年) 二月十五日 商業学および経済学研究のため、ドイツ在留を命ぜられた。

イールズ博士への陳情	239
書齋での一言	243
父親代わりの大野先生	246
在樽二十年	249
笑顔	253
水族館と小樽短大	255
小樽ロータリークラブと先生	257
ある時期の主治医として	260
羅針盤になってくださった先生	264
若手教官海外派遣の悲願	267
先生と図書館の本	270
晩年の大野さん	277
東京住まいの先生	282
日銀へ来られた大野先生	286
竹村保明	239
天利長三	243
浜林正夫	246
古瀬大六	249
木村章三	253
島本虎三	255
杉江猛	257
朽木英一	260
河田照子	264
麻田四郎	267
松田芳郎	270
南亮三郎	277
山口恒四郎	282
室谷邦雄	286

一日違いの伝言	290
その日の出来事	292
ご葬儀のことなど	296
小樽商大拡充資金のこと	300
大野純一先生の横顔	304
大野学長を悼む(緑丘会弔辞)	311
父の素顔	316
飯川益男	320
森松定男	290
大田末穂	292
河野祐二	296
長谷部亮一	300
大谷敏治	304
中田乙一	311
大野英子	316

糸魚川君と私……………	142
先生の一通の手紙と私……………	146
緑丘伝統の燈火は消えず……………	150
わが母校のルーツと将来への願い……………	155
大野純一先生著作目録……………	163
大野純一先生略歴……………	172

第二部 大野先生を偲ぶ

袴姿の中学時代……………	志羽 俊栄……………	179
ザルそば十杯をペロリ……………	東 舜英……………	181
保証人候補に前田侯爵……………	原谷 一郎……………	183
「緑丘」創刊の頃……………	金卷 賢字……………	186
「北海道経済研究所」の活躍……………	服部 政一……………	188

乾 杯……………	高田 正明……………	192
答案は簡潔に……………	松木 義雄……………	193
幻の大野ゼミ……………	伊原 利勝……………	194
軍服姿の大野先生……………	小田島 一雄……………	196
絶賛された「根室地区兵用地誌」……………	秋野 武夫……………	200
入舟町時代の先生ご一家……………	小林 一富……………	201
緑丘は残った……………	松尾 正路……………	206
母校愛に燃えた先輩……………	竹村吉右衛門……………	210
学制改革と小樽商大の誕生……………	古関 周蔵……………	213
ユニークなリーダー……………	中野 清一……………	216
商大昇格運動の苦心……………	大平 善梧……………	220
母校再建に奮闘……………	西野 嘉一郎……………	223
母校大学昇格の一秘話……………	木曾 栄作……………	227
初代学長を讃える……………	板垣 與一……………	234

目次

題字

刊行のことば

西野嘉一郎
八木勇平

第一部 大野先生の論文、著作

貨幣と経済価値

金本位ブロックの崩壊と世界幣制の将来

貨幣数量説と流通速度の概念について

通貨政策の目標について

学生諸君に望む

小樽商科大学開学式式辞

3
18
36
57
67
74

開学記念論文集序文

永遠の生命を有する小樽高商

創立四十五周年を迎えて

母校を去るにあたって

小樽商科大学の設立 小樽商大短期大学部の設立

あの頃の話——『緑丘』第一号の思い出——

昔ばなし

戦後の学園風景

世が世なら打首にでもなった話

私の身元保証人

奇跡

経営における人と組織

市井の人小林多喜二の片鱗

責任者不在の日本国

82
84
86
89
91
103
107
111
117
121
126
130
135
138

大野純見先生追想集



0/1
42
746